

自己評価（学校関係者評価）結果公表（平成 31 年度）

青山幼稚園

1. 本園の教育目標

教育・保育理念「健やかに体いきいき心のびのび」とした子どもの育成を目ざす。

《期待される子ども像》

- よい習慣や態度を身につけ友だちを思いやる子ども
- 元気よく遊び、進んで行動する子ども
- 身近な自然に興味・関心を持ち、自然に親しむ子ども
- よく見聞きして、よく考える子ども
- 自分の思いや考えをのびのびと表現する子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

本園の教育理念・保育理念、期待される子ども像をふまえ、子どもを中心に教職員、保護者が協働し「楽しいことがたくさんある幼稚園」「明日も行きたいと思える幼稚園」「園児のやる気、意欲を高める幼稚園」「生きていく力を育む幼稚園」をめざしていく。特に、元気なあいさつ、相手の顔を見て話を聞く、手洗いや歯磨きを含む自己健康管理をしっかりする、他の子と助け合う力を育んでいく。

3. 評価項目及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
年間指導計画の設定・実践の充実を図る	・本園の目標、重点課題をふまえ、各学年、各クラスでの年間計画、週指導案、実践の成果、課題を各学年、担当チーム、全教職員で共有し、丁寧かつ具体的に振り返り、組織的、チームとしての取り組みの充実を図った。
保育方針、活動の発信を積極的に進め、本園の保育・教育への啓発、理解に努める	・本園のホームページを活用し、日々の保育や行事等をブログで発信し、情報提供に努めた。「わかりやすい」「読みたい」「園、担任が伝えたいメッセージ」をコンセプトに構成、内容、カット等を工夫し、園だより、クラス便りにて保育内容の紹介、発信、理解に努めた。
教員の資質向上、力量の向上に努める	・保育・教育内容のねらい、成果、課題等を一人ひとりの教員が振り返ることに加え、先輩教員、管理職のリーダーシップを生かし、日々の保育や行事を効果的に推進した。 ・子どもの実態や課題等を踏まえ、研修の目的や獲得目標を明確にして積極的に参加し、研修での学びを日々の保育、行事等に生かした。 ・危機管理能力を高めるために、園児の怪我、火災や地震、風水害等の防災、食アレルギーへの対応について、園外での研修も生かした園内研修を開催し、研修を深めた。
預かり保育の充実を図る	・落ち着いた環境の中で、安心、安全、楽しい保育が進められるよう、折り紙工作、読み聞かせなど幼稚園の預かりであることの自覚を持った室内遊びを工夫してきた。異年齢集団のつながりを大切に、外遊びも出来るだけ取り入れ、生き生きした預かり保育に努めた。子どもの実態、活動等について、預かり担当と担任、管理職で情報を共有し保育を進めてきた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・組織、チームの活動を大切にし、教職員と家庭との連携を深め、実践することが出来た。
- ・教育目標、重点課題、評価項目を学期毎に振り返り、成果、課題等を整理し、次なる取り組みを教職員全体で明確にして取り組みを推進できた。
- ・本年度も積極的に情報発信に努め、保護者と園との連携、協働の取り組み、保護者間のつながりを大切にした保育やPTA活動を推進し保育の充実を図った。

5. 今後取り組むべき課題

「子育て相談」の充実	子育て相談、教育相談をキンダーカウンセラー事業を活用実施し、4年目となった。保護者の子育てでの悩みや子どもとの関わり、また教職員の子ども家庭との連携等に関して、より一層、具体的な手立てが明らかになるよう、カウンセラーと保護者、教職員の連携の充実を図っていききたい。
施設設備の充実	園児、教職員、保護者にとって、安全、安心、活用しやすいハード面の整備に努めている。今後も、遊具、保育施設、設備等の安全点検を実施し、施設、設備の修理、解体等について年次計画づくりや優先順位を決定し、より安全で充実した保育環境作りを進めていく。
特別支援教育の充実	支援の必要な園児だけでなく、全ての園児が、自尊感情や自己肯定感が高められるよう、保育・教育内容、具体的な対応等について教職員で学び、支援教育の視点を踏まえた園児への関わり等について、各市教育委員会や関係機関との連携も図り支援教育の充実を図っていく。

6. 学校関係者の評価

本年度も、後援育友会の運営委員8人に参加いただき学校関係者の評価委員会を学期毎に年3回開催した。一学期の1回目の委員会では、本年度の園の重点目標、重点課題、後援育友会活動の内容、連携行事について話し合い意見交換した。二学期は、前期の取り組みの振り返り、特に夏祭りの「星まつり」が悪天候により実施できなかったことや運動会の振り返り、後期の取り組み内容について確認した。三学期は、新型コロナウイルス感染対策として休園期間があったため6月に実施し、後期、並びに1年間の振り返り、成果や次年度の引継ぎ事項、活動内容等について話し合った。今回は特に2月末で突然の休園を余儀なくされ、卒園に関する行事、お別れ会などが全くできなかったことに園児の健康面を気遣うと共に大変遺憾であるとの旨の意見を頂いた。教育目標や重点課題、子どもの現状、取り組みの成果、課題等については、お互いの信頼関係を大切に、情報交換、意見交換を積極的、率直に行い、意見、提言、評価を受けてきた。評価者である後援育友会運営委員は、後援育友会活動で来園することも多く、また園の日々の保育や行事について打ち合わせをする回数も多く、加えて保育内容や園児の活動している様子も良く把握出来ており、園児が楽しく、また真剣に活動している様子や教職員のがんばりについて本年度も肯定的な評価を受けた。日々の保育や行事のねらいや子どもたちの様子について、できるだけわかりやすく伝えるために実施している園のホームページのブログ等の発信については、「子どもたちの様子や行事の様子がわかりやすい」等の評価は頂いたものの、今年度はアップ数が極端に少なかったのではないかとの意見も頂いた。次年度も、園と家庭、学校関係者、後援育友会とのつながりや協働の取り組みを進め、信頼関係を一層深め継続、変更、新設の観点から、園の保育・教育、後援育友会活動を振り返り、より信頼される保育・教育の推進に努めたい。

7. 財務状況 公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。